



全関東も男子準V

5月5日に行われた関東学生弓道選手権春季決勝トーナメントにおいて、筑波大弓道部は女子団体優勝、男子団体準優勝、女子個人で斎藤詩乃選手(体育4年、北海道・札幌旭丘高が準優勝、男子個人で竹内匠選手(社会2年、高知・高知学芸高が遠近競射の結果3位入賞と輝かしい成績を収めた。

今回は、女子団体を優勝に導き、自身は個人準優勝を成し遂げた斎藤選手と、部をまとめ上げ、男子団体を牽引した主将阿部哲哉選手(体育3年、群馬・前橋西高に話を聞いた。

今回は、女子団体を優勝に導き、自身は個人準優勝を成し遂げた斎藤選手と、部をまとめ上げ、男子団体を牽引した主将阿部哲哉選手(体育3年、群馬・前橋西高に話を聞いた。



男子団体 阿部選手:同部提供

男子準V 女子優勝 弓道

春季関東



団体決勝 斎藤選手:同部提供

「前が1、2年生。調子も良かったわけではなく、これから伸びる時期でもあり、抜いても矢を外してもしょうがない。自分に出ることは4本毎試合詰めることだから、それに徹して、前の子たちは伸び伸びと経験を積んでくれればいいかなという気持ちで」

「前が1、2年生。調子も良かったわけではなく、これから伸びる時期でもあり、抜いても矢を外してもしょうがない。自分に出ることは4本毎試合詰めることだから、それに徹して、前の子たちは伸び伸びと経験を積んでくれればいいかなという気持ちで」

「前が1、2年生。調子も良かったわけではなく、これから伸びる時期でもあり、抜いても矢を外してもしょうがない。自分に出ることは4本毎試合詰めることだから、それに徹して、前の子たちは伸び伸びと経験を積んでくれればいいかなという気持ちで」

「前が1、2年生。調子も良かったわけではなく、これから伸びる時期でもあり、抜いても矢を外してもしょうがない。自分に出ることは4本毎試合詰めることだから、それに徹して、前の子たちは伸び伸びと経験を積んでくれればいいかなという気持ちで」

「前が1、2年生。調子も良かったわけではなく、これから伸びる時期でもあり、抜いても矢を外してもしょうがない。自分に出ることは4本毎試合詰めることだから、それに徹して、前の子たちは伸び伸びと経験を積んでくれればいいかなという気持ちで」

「前が1、2年生。調子も良かったわけではなく、これから伸びる時期でもあり、抜いても矢を外してもしょうがない。自分に出ることは4本毎試合詰めることだから、それに徹して、前の子たちは伸び伸びと経験を積んでくれればいいかなという気持ちで」

「前が1、2年生。調子も良かったわけではなく、これから伸びる時期でもあり、抜いても矢を外してもしょうがない。自分に出ることは4本毎試合詰めることだから、それに徹して、前の子たちは伸び伸びと経験を積んでくれればいいかなという気持ちで」



VS青山学院戦:同部提供

女子バレー 5連覇

春になり、新しいチーム体制となった筑波大学女子バレーボール部は、出だしから絶好調の模様だ。

春になり、新しいチーム体制となった筑波大学女子バレーボール部は、出だしから絶好調の模様だ。

春になり、新しいチーム体制となった筑波大学女子バレーボール部は、出だしから絶好調の模様だ。

春になり、新しいチーム体制となった筑波大学女子バレーボール部は、出だしから絶好調の模様だ。

筑波スポーツ

平成29年7月24日(月) 第170号

題字:中山雅史氏
(元サッカー日本代表・蹴球部OB)

【結果】
2017年度
春季関東大学女子1部リーグ
●筑波大 1-3 ●嘉悦大
○筑波大 3-0 ●宇都宮
○筑波大 3-0 ●松蔭大
○筑波大 3-0 ●東女体
○筑波大 3-1 ●順天堂
○筑波大 3-0 ●日体大
○筑波大 3-0 ●東女体
○筑波大 3-2 ●東女体
○筑波大 3-1 ●東海大
○筑波大 3-1 ●青学大
最終結果 8勝1敗、優勝
最優秀選手賞 井上愛里沙
会長特別賞 井上愛里沙
リベロ賞 和田実莉
新人賞 川上雛葉



蹴球部 関東リーグ前期1位



VS流経大戦:佐瀬撮影

5月6日、毎年恒例の「蹴球部前期バスツアー」が開催された。今回は龍ヶ崎市陸上競技場たつのフィールドでの、関東大学サッカーリーグ戦第4節が舞台。対戦相手は流通経済大で「茨城ダービー」となった。関東リーグ開幕三連勝と勢いに乗った筑波大蹴球部を後押しするために多くの人がバスツアーに参加した。

14時、試合開始のホイッスルが鳴り響いた。積極的なゴールを狙った筑波大だが、前半48分、相手選手にPKを決められ先制された。さらに後半開始直後に三笠薫選手(体育2年、神奈川・川崎U18)が退場処分となり10人で戦うこととなってしまった筑波大。後半13分にはカウンターの2失点目、後半37分には再び相手選手のシュートで3失点を許した。大きく突き放されたが、後半43分、途中出場した西澤健大選手(体育3年、静岡・清水エスパルスユース)のFKが見事に決まり1点を返す。しかし反撃もここまでとなり1対3で試合終了。筑波大は2022日ぶりの公式戦黒星となった。

今試合には惜しくも敗れてしまったが6月25日の最終戦にて関東リーグ前期を1位で終了した蹴球部。9月から始まる後期リーグでの活躍も期待し、今年こそは、昨年果たせなかった前後期合わせた年間リーグ優勝を果たしてほしい。

新入生、初の関東リーグ

今回は開幕戦からベンチ入りした期待の新入生の渡邊陽選手(体育1年、埼玉・浦和ユース)と生地慶充選手(体育1年、東京・F.C.東京U18)の2人に取材した。生地選手は開幕戦からベンチ入りした心境について何うと「筑波大は今まで開幕戦でなかなか勝てていなかったため気合が入っており、そう

という舞台のベンチに入れたことはよかった。」と答えた。そして開幕戦、天皇杯の流経大戦での途中出場を果たした渡邊選手にも気持ちがあり、自分の実力を出ることができたわけではない。しっかり練習でアピールしてまた出場できるようにやっていきたい。」と答えた。

最後に筑波大蹴球部員としてのこれからの意気込みを伺った。渡邊選手は「1年だからと言ってメンバー外が普通ではなく、試合に出て結果を残していきたい。」と、生地選手は「少し早く先輩方に追いついて、試合で筑波大の勝利に貢献したい。」と語ってくれた。しっかりと将来を見据えた様子の2人。筑波大蹴球部の未来を担う存在として、今後の活躍に注目したい。(外本暖菜)

【結果】

第91回

関東大学サッカーリーグ戦

○筑波大 1-0 日体大
○筑波大 1-0 東洋大
○筑波大 2-1 桐蔭横浜大
●筑波大 1-3 流経大
△筑波大 0-0 慶應義塾大
△筑波大 2-2 順天堂大
○筑波大 3-0 法政大
○筑波大 4-1 駒澤大
○筑波大 3-1 専修大学
○筑波大 2-0 明治大
○筑波大 4-0 東京国際大
前期結果 8勝1敗2分、勝ち点26、第1位

バスツアーレポート



バスツアーサイン会:島田撮影

硬式野球部 VS桜美林大 観戦記



投手の大場選手:佐瀬撮影



松谷選手:佐瀬撮影



細川選手:同部提供

筑波大学硬式野球部は首都大学リーグにおいて、8勝5敗の2位という成績を収めた。そして、今期のベストナインを二塁手部門で種子島選手(体育3年、勝郷高校)、外野手部門で細川選手(体育4年、弥栄高校)、投手部門で松谷選手(体育4年、報徳学園高校)の3名が受賞した。

4月30日に行われた桜美林大学とのリーグ戦では、初回4番種子島のセンター前ヒットで筑波が先制する。その後も5番松谷のライトへのツーベース、6番皆神(体育2年、常総学院高校)のレフト線への2点タイムリーヒットが飛び出し、一挙4点を奪って試合を優位に進める。しかし、桜美林も初回に1点を返すと、三回に3番兵頭(ソロホームラン)と6番高橋のライトへのツーベースで追いつけ、二死一塁と長打が出れば、同点の場面を作る。ここで筑波は先発中真(体育2年、首里高校)に代え、番手加藤(体育1年、花巻東高校)を投入すると、後続をセンターフライに打ち取ってピンチを切り抜ける。そして5回、死満塁のチャンスを作る。

2年、常総学院高校のレフト線への2点タイムリーヒットが飛び出し、一挙4点を奪って試合を優位に進める。しかし、桜美林も初回に1点を返すと、三回に3番兵頭(ソロホームラン)と6番高橋のライトへのツーベースで追いつけ、二死一塁と長打が出れば、同点の場面を作る。ここで筑波は先発中真(体育2年、首里高校)に代え、番手加藤(体育1年、花巻東高校)を投入すると、後続をセンターフライに打ち取ってピンチを切り抜ける。そして5回、死満塁のチャンスを作る。

選手インタビュー

この試合でチーム最多の4打点を挙げ、ベストナインも受賞した細川選手は、春季リーグを振り返って「リーグを通してレギュラーとして出られたのが今回初めてだったので、ようやくチームの力になれてうれしい部分もあるのですが、チームの優勝が一番の目的だったので残念でした」と悔しさをにじませていた。

また、自身のことについて振り返ると「打順が6番から1番に変更になった時は、自分が出塁すればいいと楽に考え、打席に入ることができました。打点も挙げられチャンスでランナーを返せたことでチームに貢献できたんじゃないかなと思います。ただ、自分のバントのミスなどで1点差のゲームを落としているので、まだまだ改善すべきところはまだたくさんあるのかなと思います」と反省した。そして、秋季リーグの意気込みを尋ねると「チームの優勝の原動力になりたいと思います。春季は自分が原因となつて負け試合もたくさんあったので、走攻守すべてレベルアップして自分の細かいミスを徹底的に

なくしていきたいと思っています」と語った。

また、硬式野球部主将の松谷選手は「優勝を目的にしている以上、2位という結果には全く満足していません。今春は長打が絡んだ得点が多かったものの、打たないところは全員打てず、打開

【結果】

首都大学野球連盟2017春季リーグ戦

○筑波大 3-2 日本体育大
○筑波大 9-0 日本体育大
●筑波大 1-2 帝京大
○筑波大 3-1 帝京大
○筑波大 2-0 東海大
●筑波大 1-4 東海大
○筑波大 4-3 桜美林大
●筑波大 10-4 桜美林大
●筑波大 3-4 帝京大
●筑波大 3-8 東海大
●筑波大 0-1 明星大
●筑波大 0-1 明星大
○筑波大 2-0 明星大
○筑波大 8-0 明星大
最終結果 8勝5敗、勝ち点3、勝率0.615、第二位

首都大学リーグ準V

するものも少ないながらも、薄い打線になってしまったという印象があります。失点減少は投手が与四死球や防御率の課題を意識して取り組んだ成果であると思います。しかし、大事なところでの失点や勝ちきれない点については、技術面では語れない投手野手ともに関わっている課題であると思います。春に出たたくさんの課題を夏の練習で潰し、技術面だけではなくプレッシャーのかかる場面でも結果が出せる精神面も鍛えていきたいと思っています」と語った。

また、硬式野球部主将の松谷選手は「優勝を目的にしている以上、2位という結果には全く満足していません。今春は長打が絡んだ得点が多かったものの、打たないところは全員打てず、打開

【編集後記】

今年度も春季大会では好成績を取った団体や選手が多く、記事の構成に頭を抱えました。しかし、活躍した全ての選手・団体を取り上げられないことは、残念ではある一方で、とても贅沢な楽しみだ日々感じています。夏以降も紙面に載せきれないほど多くの結果が見られることを心待ちにしています。さて、今号は新たに5名の編集員を迎えてから初めての発行でした。今まで以上に試合観戦や選手への取材に赴く機会が増え、大変うれしく思っています。次号以降もより良い新聞の作成を目指してまいりますので、お手にとっていただけると幸いです。

発行所/筑波大学体育会
(TEL.029-853-2589)
発行人/久田陽介
編集/筑波スポーツ編集部
tsukusupo@hotmail.co.jp
責任者/島田すみれ(編集長)



編集長
島田すみれ(比文2年)
広報
山中貴裕(医療科3年)
編集スタッフ
猪本あかり(比文4年)
篠原美奈(比文4年)
佐瀬醇(資源3年)
千葉進(図情3年)
連沼礼子(看護1年)
松本樹(比文1年)
外本暖菜(図情1年)

男子ハンドボール優勝



VS桐蔭大戦:女子ハンドボール部提供

筑波大学男子ハンドボール部は春季リーグにおいて、7勝0敗2分の成績でシーズン連続21回目の優勝を収めた。また、今季の最優秀選手に小柳諒祐選手(体育4年、愛知・宮高)、優秀選手に堀広輝選手(体育4年、岩手・盛岡高、瀬川翔選手(体育4年、岐阜・市立岐阜商高)、牧野イサム選手(体育3年、愛知・松陰高)が選ばれた。そして、筑波学女子ハンドボール部は、次リーグにて4勝2敗1分、二次上位リーグにて4勝1敗1分の2位という成績を収めた。加えて、優秀選手賞を西浦可歩選手(体育4年、愛知・星城高)、青麗子選手(体育2年、東京・白梅学園高)、特別賞を藤原真由子選手(体育4年、愛知・名古屋経済大学市邨高)が受賞した。

男子ハンドボール部主将の徳田新之介選手(体育4年、山口・岩国工高)と最優秀選手の小柳選手にインタビューを行ったところ、今回の優勝について、小柳選手は「4年生というところ、チームを勝たせなければいけないという責任感が伴っていたので、優勝できてよかった」と語った。また、今回部内から4名優秀選手が選ばれたことについて、徳田選手は「チームが苦しい時に個々の力がほかの大学よりも上回っていた部分があったので、そこで苦しい場面を開けてきたことがすごく大きかったと思います。」と振り返った。一方、小柳選手は「優秀選手3人を中心にチームでまとまりをもって試合に臨めたので、個々の力よりも総力戦で勝てたのではないかと思います。」と、チームの重要性を語った。さらに、今後の改善点について、徳田選手は「流れを悪くしない雰囲気づくり」をあげ、「個々の判断力や戦術を理解する力など、個々の力を上

女子は準V



げていくことでチーム力を上げていきたいです。」と目標を口にしていた。最後に、秋季リーグに向けた意気込みを尋ねると、徳田選手は「最大の目標であるインカレ優勝に向けて、秋季リーグはすごく大事になってくると思うので、個人やチームの課題をつずつクリアして、チーム丸々となって圧倒的な力を見せて全勝したいです。」と熱く語った。加えて、小柳選手は「4年間の集大成として、インカレ優勝を達成したいです。」と意気込みを語った。

また、女子ハンドボール部主将の西浦選手にもインタビューを行ったところ、「自分たちの今年の目標は『安定感』で、試合やリーグ全体を通して安定感を持ったチームでいることを心がけています。(次リーグで敗北し、二次リーグで引き分けた東京女子体育大学戦では勝てなかった悔しさがありますが、自分たちでもできなかったところを修正できれば優勝できるんだと自信になりました。秋季リーグでは全員で守備の意識を高め、声を出して気持ちから盛り上げていきたいと思います。秋は絶対全勝優勝できるように、『安定感』を持つチーム作りをしていきます。」と熱い胸の内を語った。男女どちらのチームもリーグ

女子バドミントン



ゴールデンウィークの真つただ中、選手達はリーグ優勝を目標に掲げ汗を流した。4月29日から5月5日の7日間、日本体育大学健志台キャンパス(神奈川県横浜市)で関東大学生バドミントン春季リーグが行われた。本大会において筑波大学バドミントン部女子チームはリーグ優勝を果たし、5季連続優勝という快挙を成し遂げた。今回編集委員では、一年生ながら大会 MVP および新人賞を受賞し、チームをリーグ優勝に導いた香山未帆選手(体育専攻 岡山・倉敷中央)に取材をした。大会初日、香山選手は日本体育大学(日体大)との初戦、第シングルスに挑まされた。大学生として初めての試合であったが、勝つことはできずデビュー戦は苦い黒星スタートとなった。「最初の大事な戦、勝たなければいけないと強く思ってしまった。最初の大会初日、香山選手は日本体育大学(日体大)との初戦、第シングルスに挑まされた。大学生として初めての試合であったが、勝つことはできずデビュー戦は苦い黒星スタートとなった。『最初の大事な戦、勝たなければいけないと強く思ってしまった。最初の大会初日、香山選手は日本体育大学(日体大)との初戦、第シングルスに挑まされた。大学生として初めての試合であったが、勝つことはできずデビュー戦は苦い黒星スタートとなった。』

5連覇

香山選手:本人提供

男子バスケ



優勝

5月7日、国立代々木競技場第二体育館で行われた第66回関東大学バスケットボール選手権大会の決勝で筑波大学男子バスケットボール部が優勝を果たした。対戦相手は初の決勝進出となる白鷗大学。第1Qでは白鷗大学にリードを許す場面も見られたが、前半の48分、最後には115と大差をつけて勝利し昨年王者の力を見せた。最優秀選手賞として馬場雄大選手(体育4年、富山・富山第二高)、優秀選手賞として増田啓介選手(体育2年、福岡・福大大濠高)、杉浦佑成選手(体育4年、福岡・福大大濠高)の3選手が選出された。主将の青木保憲選手(体育4年、福岡・福大大濠高)に2連覇を達成した心境を尋ねると「ホッとしたのが正直な気持ち。大会前はチームの完成度は高くなかった不安があったが、無事2連覇できて安心した。」と答えた。さらに決勝、準決勝ともに大差をつけての勝利だったことについてのコメントを求めると「ゲームを通してディフェンスとリバウンドを徹底できたのが大きかった。堅守速攻という筑波らしいバスケットが展開できた。」と語った。最後に今後の意気込みを伺うと「新人戦を含めた四冠インカレ4連覇を達成できるようにチーム丸々となって日々の練習に取り組んでいきますので、ご声援よろしくお願い致します。」と力強く答えた。(な

活躍を期待させる男子バスケットボール部から今後も目が離せない。(外本暖菜)

【結果】第66回関東大学バスケットボール選手権大会
筑波大 114 ● 関東学院大 82
筑波大 82 ● 法政大 80
筑波大 104 ● 大東文化大 57
筑波大 115 ● 白鷗大 57
最終結果、優勝
最優秀選手賞 馬場雄大
優秀選手賞 増田啓介
杉浦佑成

馬場選手:同部提供